

【地域ブランディング】

地方の町長がよくする挨拶に「私のまちは何も無いが、美しい空気や素敵な星空があります」という言い回しがあります。確かにそのほかの資源としても素晴らしいモノが沢山ありますが、それらを換金する仕組みがあれば、本当の意味で「資源」となり得るでしょう。資源とするための地域の仕組み作りや「地域デザイナー」の育成を進めています。



◀ 奄美群島でのデザイン人材育成事業

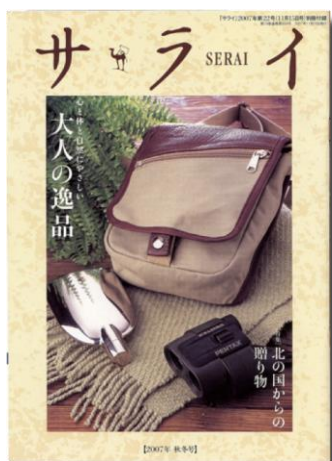
奄美群島は黒糖と黒糖焼酎、タンカンなどの柑橘類、国産ゴマなどの製品とその加工品が生産されています。六次産業化にはまず、地域産品をプロデュース、デザイン人材を群島内で育てることを目指して、各島でのデザインセミナーとワークショップを開催しました。



◀ 北海道本別町での黒豆ブランド「キレイマメ」

北海道本別町は豆のまちとして有名ですが、豆という産品自体は地域性や差別化が難しい産品です。地域の納豆、豆腐、甘納豆、味噌などの個別の製造事業者を連結し、本別町のブランドを作り出す取り組みを行いました。

ロゴデザインは武蔵野美術大学のデザイン学科教授と学生にお願いをして製品化。いまでは地域ブランディングの成功事例となっています。



◀ 害獣として駆除されたエゾシカ皮を利用した「エゾシカ革バッグブランド」

エゾシカの食害が農業に対して損害を与えていることが知られてから、盛んに駆除されるようになってきました。現在では11.6万頭が駆除され、45万頭が生息していると推計されます。

駆除されたシカを資源として利用するためにエゾシカ革のリュックやバッグを作ろうという取り組みを行いました。シライデザイン様や小学館と連携して全国に売り出し完売することができました。